

ヒト新鮮組織検体の有効利用に向けて

日時

2026年 **10**月**2**日（金） 11:00 ~ 12:00

開催形式

Zoomウェビナー（聴講登録頂いた方にURLをセミナー前日までにメールでお知らせします）

聴講登録

<https://forms.gle/6gx8YJmB1PFADtGi7>

登録〆切：2026年10月1日（木）12:00



講 演

ヒト新鮮組織検体の有効利用に向けて

井上 正宏

京都大学大学院医学研究科
京都大学「医学領域」産学連携推進機構 (KUMBL)
先端バイオメディシン解析室／研究支援コンシェルジュ
特任教授



創薬において、より患者に近いin vitro評価系が必須である。我々は凍結保存後でもヒト新鮮組織の培養を可能にする技術を開発した。ヒト新鮮組織をオンデマンドで解析できる技術は、創薬において新たなプラットフォームを提供する。

本セミナーでは技術の社会実装についても議論したい。

クロストーク & QA

「産学連携への期待」

井上 正宏

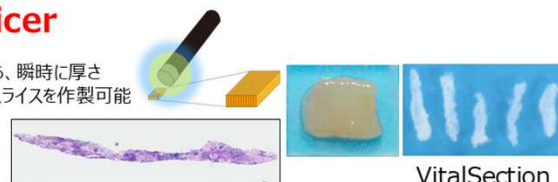
京都大学大学院医学研究科 京都大学「医学領域」産学連携推進機構 (KUMBL)
先端バイオメディシン解析室／研究支援コンシェルジュ 特任教授

鈴木 忍

京都大学 「医学領域」産学連携推進機構・成長戦略本部 特定教授

TapSlicer

新鮮組織から、瞬時に厚さ
300μm のスライスを作製可能

**F-CAT**

Frozen Culture-Able Tissue preservation
新鮮組織を凍結保存後にも培養できる

